

再び経験することのない新人としての初めての山行は、二日酔いの断片的な印象でしかないけれど、おでんの塩味の効いていた事や音律を正確には思い出せないが、一緒に歌った事が、肌寒い風の吹いていた記憶と共に心に残っている。そして、何の印象よりも心に残るものは、かすかな、それでいてはっきりと耳に聴えた先輩達の足音だろう。何も語らずとも、安心感を与えてくれたあの足音……。

（長崎 兼）

### 1905 仙ノ倉山北尾根

期日 四月一四日(土)～一五日(日)

参加者 藤井し 斉藤(田) 福島

報告

☆四月一四日(土) 曇り後雨 土樽ーシツケイノ頭

どんよりとした空模様の下、土樽駅を出る。毛渡沢沿いの林道はまったく雪がない。昨年と同時期はずっと雪の上を歩き、大きなデブリも出ていたというのに、大変な違いである。

ニピッチで群犬ヒユツテ跡に到着。いやらしい吊橋

を渡って北尾根に取付く。ここから雪の上を歩くことになる。一ー八二mのピークまでの急登にいざさかアゴを出す。

前日の天気予報では悪天が予想されたが、小雨程度で風も弱く、行動にはさほど支障がない。しかし、展望のまったくない雨の中の登高は楽しいものではない。前週と同じコースで遭難死した四人パーティのことが話題にのぼる。

尾根自体は急峻な雪稜、トラパスなど、適度に緊張する所も出てきて、なかなかよい。もう少し雪の多い年に、晴天の下で登りたいルートだ。

広い雪原状のシツケイの頭に登り着き、時間は早い。今日はここまでとする。 (福島 功夫)

タイム 土樽 6・25ー群犬ヒユツテ 7・45ー8・15  
一ー八二m 9・35ーシツケイの頭 12・15

☆一五日(日) 晴

昨晚の雨がツエルトに凍りつき、張り綱は氷の棒になっている。起床時には雨が残っていたので、雨具を着けて出たが、どんどん晴れてきて、晴天になってし

まった。藤井はようやくカメラの登場の機会がきたとさかんにシャッターを切る。もっとも、青空をバックに雨具姿の記念撮影はあまりさえないかったが。

急登一ピッチで仙ノ倉山頂である。ここから平標山までの縦走路はあまり雪が着いていない。平標から松手山へ向けて下山を開始すると、元橋から日帰りのパーティが続々登ってくる。短いルートなので日帰りの雪山としては手頃なのだろう。

ニピッチで元橋に下ってしまう。この茶店の主人の話だと、何十年に一度の雪の少ない年だとのこと。ここで解散し、バスで越後湯沢に向かった。

(福島 功夫)

タイム シツケイの頭 6・35ー仙ノ倉山 7・15ー35  
ー平標山 8・15ー45ー松手山 9・25ー40ー元橋 10・25

### 1906 滝子山 (滝子沢変更)

期日 四月一五日(日) 曇りときどき晴れ

参加者 柳川し 以上一名

報告

赤松の林  
松平尾根がやや北を向き、笹子川の向こう側の山が良く見える所から、松平とつじが丘のなだらかな所の両側に100mずつ、3回で300mの坂、でも汗がにじむ頃には山頂です。